



コンパクト アナログデータ ロガー

*LE-910R*

---

# 取扱説明書

---

最新の取扱説明書は、付属のCDに pdf ファイルで収録されています。

( 第 3 版 )

## 目次

---

ご注意	1
使用限定について	1
必ずお読みください！！	2
適切にご利用いただくために	3
第1章 ご使用の前に	4
1-1. 商品構成	4
1-2. 製品概要	4
1-3. 仕様	5
1-4. 各部の説明	7
第2章 起動の前に	9
2-1. 動作環境	9
2-2. USBドライバのインストール	9
2-3. 測定ソフト（LE-LINK91）のインストール	10
2-4. 無線 LAN（Wi-Fi）の設定	10
第3章 基本的な設定	12
3-1. 測定の準備	12
3-2. 測定の設定	14
3-3. 測定の方法	15
3-4. ログファイル	16
第4章 測定ソフト	17
4-1. 各部の説明	17
4-2. グラフの見方	22
第5章 便利な機能	24
5-1. 外部信号をトリガーに使用した測定	24
5-2. 同期測定モード	24
第6章 資料	26
6-1. 制御コマンド	26
6-2. オプション	26
第7章 アフターサポート・保守	27
7-1. 故障かなと思ったら	27
7-2. 保証とアフターサービス	28

## はじめに

このたびは LE シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
本機を正しくご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。  
なお、この取扱説明書と保証書は、必ず保存してください。

## ご注意

---

- 本書の内容の全部または一部を無断で転載あるいは複製することは、法令で別段の定めがあるほか、禁じられています。
- 本書の内容および製品仕様について、改良などのため将来予告なく変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万一記載漏れや誤り、理解しにくい内容など、お気づきの点がございましたらご連絡くださいますようお願い致します。
- 本機を使用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、一切のその責任を負いかねます。また、本製品を使用中にデータなどが消失した場合や、記録したデータが壊れていた場合でも、データなどの保証は一切いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## 使用限定について

---

本製品は計測機器として使用されることを目的に、開発製造されたものです。原子力設備や機器、航空宇宙機器、医療機器、輸送設備や機器など故障や誤動作が人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器と組み合わせて使用されることは意図されておらず、また保証していません。このような用途で使用される場合は、お客様の責任においてフェールセーフなどの安全対策へのご配慮をいただくとともに当社営業担当者までご相談ください。

本製品は無線 LAN 機能 (IEEE 802.11b/g/n) を搭載しており、移動時に電波を利用します。医療機器、電子レンジ、高精度な電子機器やテレビ・ラジオに隣接する場所、移動体認識用の構内無線局および特定小電力無線局近くでは使用しないでください。管理者が無線機器の使用を制限している場合は、管理者の指示に従って使用してください。

本製品の Wi-Fi 接続機能は、日本国内でのみ利用いただけます。なお、本製品に搭載の Wi-Fi モジュールは、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局設備の工事設計認証 (TELEC 技適) を取得しており、本製品の利用にあたり、無線局の免許は必要ありません。

## 必ずお読みください！！

この「安全のためのご注意」には、対象製品をお使いになる方や、他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。

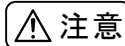
ご使用前に、次の内容（表示・図記号）を理解し、記載事項をお守りいただき正しくお使いください。

〔表示の説明（安全注意事項のランク）〕



**警告**

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



**注意**

誤った取り扱いをすると、人が傷害<sup>\*1</sup>を負うまたは物的損害<sup>\*2</sup>が発生する可能性が想定される内容を示します。

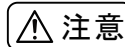
\*1： 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

\*2： 物的損傷とは、家屋、建築物、家具、装置機器、家畜、ペットにかかわる拡大損傷をさします。



**警告**

- 本製品を分解したり、改造しないで下さい。  
火災・感電・動作不良の原因となります。
- 煙が出たり、異臭、異音がする場合は、直ちに使用を中止してください。  
そのまま使用すると火傷や火災、感電の危険があります。
- 水などで濡らさないでください。  
発熱、感電、故障の原因となります。
- コネクタのピンは絶対にショートさせないでください。  
発熱、感電、故障、けがの原因となります。
- 劣化（破損など）したケーブル類は使用しないでください。  
発熱し、出火する危険があります。



**注意**

- 本製品は以下のような場所で使用もしくは、保管しないで下さい。
  - ・ 直射日光の当たる場所。
  - ・ 使用範囲を超える温湿度や、急激な温度変化の激しい場所。
  - ・ 水気や埃が多い場所。
  - ・ 熱を発生するものの近く。（ヒーター、電熱器、ストーブなど）故障やけがの原因となります。

## 適切にご利用いただくために

---

### ■ 電波法における注意点

本機は日本の電波法の認証を取得しています。電波法の「小電力データ通信システムの無線局の無線設備」にあたるので、無線免許は必要ありませんが、以下の点に注意してください。

- 内部回路やファームウェアを改造することは法律で禁止されています。
- 各国の電波法の認証が必要なため、海外ではご利用になれません。

### ■ 無線 LAN 規格について

本機は 2.4GHz 帯を利用する IEEE802.11b/g/n の無線規格に対応しています。

### ■ 無線 LAN 規格について

無線接続不良や速度低下を避けるため、次の点にご注意ください。

- 移動体識別用の構内無線局やアマチュア無線局の近くで運用しない。
- 大きな金属板の近くに設置しない。
- 電子レンジやセキュリティゲートの近くに設置しない。
- 本機同士および無線端末とは 1 ~ 3m 以上の間隔を空けて設置する。

### ■ ネットワーク環境の確認

IP アドレスなどの設定が不適切な機器をネットワークに接続すると、ネットワーク全体に影響がでる可能性があります。

必ず、事前に、本機を設置するネットワークの管理者に、以下の内容を確認してメモしておいてください。

- IP アドレス …………… [ . . . ]
- サブネットマスク …………… [ . . . ]
- デフォルトゲートウェイ …… [ . . . ]

利用する無線アクセスポイント (AP)

- SSID …………… [ ]
- 暗号化方式 …………… (  WEP、 WPA、 802.11i/WPA2 )
- 暗号キー …………… [ ]
- 利用チャンネル …… [ ]ch (1ch ~ 14ch)

## 第1章 ご使用の前に

---

LE-910R は単独駆動、PC 接続の 2 通りで利用できる精密アナログ入力計測器です。USB または無線 LAN (Wi-Fi) で PC と接続して測定データをグラフ表示しながら記録することができます。測定データは本体の SD カードにも保存できるので、PC レスで長期測定にも利用できます。なお、SD カードは弊社指定品のご利用を推奨します。 →「6-2. オプション」

### 1-1. 商品構成

---

開梱の際は、下記のものが入っているかご確認ください。

本体		: 1 台
ミニ USB ケーブル	1.8m	: 1 本
ユーティリティ CD		: 1 枚
取扱説明書 (本冊子)		: 1 部
保証書		: 1 通

※ 万一、輸送中の損傷や不足品がございましたら、お買い上げの販売店または当社までご連絡ください。

☆ 箱は大切に保管し、修理などの輸送の時にご利用下さい。

#### ● ユーティリティ CD について

測定ソフト、ドライバ、計測器本体およびオプションの取扱説明書などが、収録されています。弊社製品ソフトウェアのアップデートファイルは、<https://www.lineeye.co.jp> からダウンロードできます。

### 1-2. 製品概要

---

#### ■ 測定機能

##### ① 本体測定記録

測定データを本体に挿入された SD カードへ長時間記録できる機能です。

##### ② PC 測定記録

PC に接続して測定ソフトでグラフ表示しながら記録できる機能です。

PC 接続時も測定データを本体の SD カードに記録できます。

#### ■ 特徴

- ・ アナログ測定は電圧、電流、熱電対に対応し、高精度に測定可能
- ・ 熱電対は JIS 規格 (K, J, T, E, N, R, S, B) に対応
- ・ 測定は PC レスで SD カードに長期の記録が可能
- ・ 測定データはタイムスタンプと一緒に記録可能
- ・ 外部トリガー端子に入力される信号の立ち下がり / 立ち上がりのタイミングでアナログ値を測定し記録するトリガー機能
- ・ 外部トリガー端子を利用して複数台の計測器による同期測定が可能
- ・ パソコン上でリアルタイムに測定データをグラフ表示できる測定ソフトをご用意
- ・ 無線 LAN (Wi-Fi) 接続に対応
- ・ 35mmDIN レール取り付けにも対応できる手のひらサイズの小型筐体

### 1-3. 仕様

#### ■ アナログ入力仕様

アナログ入力回路	シングルエンドアナログ入力 5 点 (シグマデルタ型 ADC)			
入力レンジ <sup>※1</sup>	電圧: $\pm 100\text{mV}$ , $\pm 1\text{V}$ , $\pm 10\text{V}$ , $\pm 30\text{V}$ 電流: $0 \sim 20\text{mA}$ 温度: 熱電対 K, J, T, E, N, R, S, B タイプ			
分解能	電圧レンジ: 24bit 電流レンジ: 23bit			
測定精度	電圧 <sup>※2</sup>	$\pm 30\text{V}$ レンジ: $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 3\text{mV})$		
		$\pm 10\text{V}$ レンジ: $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 2\text{mV})$		
	温度 <sup>※3</sup>	$\pm 1\text{V}$ レンジ: $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 0.2\text{mV})$		
		$\pm 100\text{mV}$ レンジ: $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 50 \mu\text{V})$		
		電流 <sup>※2</sup>	$0\text{--}20\text{mA}$ : $\pm 0.05\% \text{ FS}$	
		K タイプ	$-50^\circ\text{C} \sim 1370^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 1.0^\circ\text{C})$	
			$-200^\circ\text{C} \sim -50^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 2.0^\circ\text{C})$	
			J タイプ	$-50^\circ\text{C} \sim 1200^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 0.8^\circ\text{C})$
			$-210^\circ\text{C} \sim -50^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 1.6^\circ\text{C})$	
			T タイプ	$-50^\circ\text{C} \sim 400^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 1.0^\circ\text{C})$
$-200^\circ\text{C} \sim -50^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 2.0^\circ\text{C})$				
E タイプ	$-50^\circ\text{C} \sim 1000^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 0.6^\circ\text{C})$			
$-200^\circ\text{C} \sim -50^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 1.2^\circ\text{C})$				
N タイプ	$-50^\circ\text{C} \sim 1300^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 1.5^\circ\text{C})$			
$-200^\circ\text{C} \sim -50^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 3.0^\circ\text{C})$				
R/S タイプ	$400^\circ\text{C} \sim 1760^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 3.5^\circ\text{C})$			
$0^\circ\text{C} \sim 400^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 6.0^\circ\text{C})$				
B タイプ	$800^\circ\text{C} \sim 1800^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 4.0^\circ\text{C})$			
$400^\circ\text{C} \sim 800^\circ\text{C}$ : $\pm (0.05\% \text{ rdg} + 7.5^\circ\text{C})$				
	冷接点補償精度	$\pm 1.0^\circ\text{C}$		
データ更新周期 <sup>※4</sup>	27.7m 秒 / チャンネル $\sim$ 527.5m 秒 / チャンネル			
入力インピーダンス	1M $\Omega$			
チャンネル間絶縁	350V (AC ピーク / DC) フォト MOS FET リレー絶縁			
入力端子台	ヨーロッパ端子台 5.08mm ピッチ 10 極			
適合電線	単線 $\phi 2.06 \sim \phi 0.51\text{mm}$ (AWG24 $\sim$ 12) より線 3.31 $\sim$ 0.21mm2 (AWG24 $\sim$ 12) <sup>※5</sup> 電線被覆剥きしろ 5mm			
締め付け	0.5 $\sim$ 0.6 Nm			

※1:  $\pm 50\text{V}$  以上の電圧を印加しないでください。0  $\sim$  20mA レンジは入力端子台に電流測定用抵抗 (250  $\Omega$  または 50  $\Omega$ , 精度  $\pm 0.1\%$  以下) の外付けが必要です。

※2: 周囲温度 0  $\sim$  35°C の精度です。全動作温度範囲での精度は、 $\pm 30\text{V} / \pm 10\text{V}$  レンジが  $\pm (0.1\% \text{rdg} + 3\text{mV})$ 、 $\pm 1\text{V}$  レンジは  $\pm (0.1\% \text{rdg} + 0.3\text{mV})$ 、 $\pm 100\text{mV}$  レンジは  $\pm (0.1\% \text{rdg} + 70 \mu\text{V})$ 、0-20mA 電流レンジは  $\pm 0.1\% \text{ FS}$  になります。なお、rdg は読取値に対することを、FS はフルスケールに対することを表します。

電流の精度は外付け抵抗の誤差を含みません。

※3: 周囲温度 18  $\sim$  28°C、電源投入 20 分後以降の精度です、熱電対の誤差を含みません。上記の周囲温度範囲を超過する場合、1°C ごとに各誤差数値の 1/20 を加算します。また、直射日光下など本機の一部が局所的に加熱・冷却される環境においては、冷接点補償精度を保証できません。

※4: 温度測定時、最大 1.0 m 秒 / チャンネルが加算されます。

※5: より線の時は棒端子を使用してください。

## ■ 基本仕様

USB2.0 ポート	ミニ B コネクタ
Wi-Fi 接続 <sup>※1</sup>	IEEE 802.11 b/g/n 周波数レンジ：2400MHz - 2483.5MHz 送信パワー：802.11b +20dBm, 802.11g +17dBm, 802.11n +14dBm
保存メディア	SD, SDHC カード (最大 32G バイト)
保存ファイル	CSV 形式, 1 ファイル当たり 最大約 200M バイト
電源 <sup>※2</sup>	USB バスパワー動作 外部 DC 電源 (定格入力：DC 8 ~ 30 V) 消費電力 1.8W
温湿度条件	動作時：-10 ~ 50°C、保存時：-20 ~ 60°C 湿度：10 ~ 85%RH (結露なきこと)
外形寸法・質量	約 86(W) × 103(D) × 30(H)mm 約 170g
取り付け方法	据え置き、DIN レール取付 <sup>※3</sup>

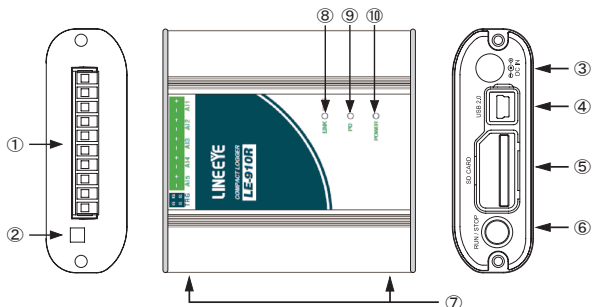
※1：本製品の Wi-Fi 接続機能は、日本国内でのみ利用いただけます。

Wi-Fi 接続機能をオフにすれば、Wi-Fi 電波は出ませんが、海外での利用で電波法規が問題となる場合には、内蔵の Wi-Fi モジュールを取り除いた「LE-910A」(受注生産)を用意しています。

※2：AC アダプタは付属しません。USB 接続での測定(PC 接続)では USB バスパワーで駆動します。無線 LAN (Wi-Fi) 接続、単独駆動での使用時は、別売りの AC アダプタ (6A-181WP09) が使用できます。

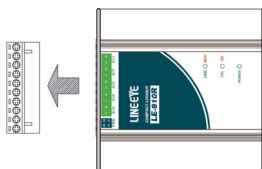
※3：オプションの取付プレートが必要です。





No.	名称	説明
①	入力端子台※1	アナログ信号の入力端子です。(着脱式 5.08mm ピッチ 10 極)
②	外部トリガー入出力端子	外部入力信号をトリガーにして測定したり、同期測定するための同期信号を入出力します。
③	DC ジャック	単独で測定する時には、ここより電源供給をしてください。
④	USB コネクタ※2	ホスト PC と付属のミニ USB ケーブルで接続します。
⑤	SD カードスロット※2	測定データを記録する SD カードを挿入します。取り出す時は SD カードを軽く押し込み、離すと飛び出します。
⑥	RUN/STOP スイッチ	測定動作を開始します。測定動作中に押すと測定を停止します。
⑦	M3 ネジ穴	オプションの DIN レール取り付けプレートを固定するネジ穴です。穴ピッチ 70mm、ネジ深さ 3.5mm(Max.)
⑧	LINK/Wi-Fi LED	測定ソフトとの接続状態と Wi-Fi の状態を表示します。
⑨	PC/SD LED	測定の動作状態と SD カードのアクセス状態を表示します。
⑩	POWER LED	電源や本機の動作状態を表示します。

※ 1 : 取り外すときは、矢印の方向に、こじらずに真っ直ぐに引き抜いてください。



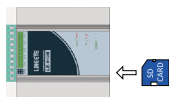
※ 2 : SD カードスロットと USB コネクタは防塵キャップを装備しています。

SD カードを交換するときは下図のように下から開けます。

USB コネクタ側だけを下図のように開けることも出来ます。



図の向きに SD カードをセットします。取り出す時は SD カードを軽く押し込み、離すと飛び出します。



## ■ LED 表示

各 LED の点灯で動作状態を表します。

### ・ LINK/Wi-Fi LED

計測器と測定ソフトが USB で接続確立すると緑、無線 LAN (Wi-Fi) で接続確立すると橙で点灯します。無線 LAN (Wi-Fi) の接続設定中は赤で点滅し、使用可能な状態になると赤の点灯に変わります。

点灯状態	動作状態	
緑 点灯	USB 接続で測定ソフトと接続中	
橙 点灯	Wi-Fi 接続で測定ソフトと接続中	
赤	点灯	Wi-Fi 使用可能
	点滅	Wi-Fi 設定中
消灯	Wi-Fi 及び USB 切断中	

### ・ PC/SD LED

測定ソフトで測定中は緑で点灯、SD カードに記録中は赤で点灯します。両方が点灯状態になると橙になり、すべての測定が停止しているときは消灯します。

無線 LAN (Wi-Fi) 設定ファイルの読み込みなどで SD カードにアクセスしているときも赤で点灯します。SD カードのアクセスでエラーが発生した場合は赤で点滅します。点滅中に SD カードを抜き取ることでエラー状態が解除されます。

点灯状態	動作状態	
緑 点灯	測定ソフトで測定中	
橙 点灯	測定ソフトで測定しながら、本体 SD カードへ記録中	
赤	点灯	本体 SD カードアクセス中 (記録中、設定ファイル読み込み中)
	点滅	本体 SD カードアクセス異常発生中
消灯	全ての測定が停止中	

### ・ POWER LED

電源が投入されている場合に点灯します。

同期モードがマスターで設定されているとき赤で点灯します。スリープ時は橙で点灯します。

電源投入時に本体に異常があった場合に赤で点滅します。この状態のとき通常動作は停止します。

点灯状態	動作状態	
緑 点灯	電源 ON	
橙 点灯	スリープとして同期モード動作中	
赤	点灯	マスターとして同期モード動作中
	点滅	本体異常発生中
消灯	電源 OFF	

## 第2章 起動の前に

本機でアナログ測定する PC には USB ドライバーと測定ソフトのインストールが必要です。

### 2-1. 動作環境

#### ■ PC/AT 互換機 (DOS/V 機)

- OS : Windows 7/8/8.1/10
- ポート : USB2.0 ポートが必要
- HDD : 測定データを保存するための空き容量が必要
- SD カードドライブ : ログファイルの読み込みや Wi-Fi 設定ファイルの保存に必要
- 無線 LAN (Wi-Fi) : 無線 LAN (Wi-Fi) 機能利用時は IEEE 802.11b/g/n(2.4GHz 帯)に対応した PC やアクセスポイントが必要

#### ■電源の供給

本機と PC を付属のミニ USB ケーブルで接続した場合はバスパワーで動作します。  
無線 LAN (Wi-Fi) 接続、単独での使用時には USB ケーブルで接続する代わりに AC アダプタを使用することもできます。

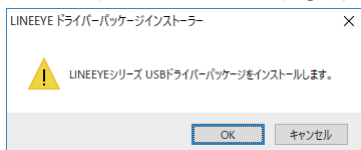
### 2-2. USBドライバのインストール

初めて本機を PC に接続した場合は、PC に USB ドライバをインストールする必要があります。インストールは次の手順で進めてください。

他の Windows でもほぼ同様の手順ですので、本手順を参考にインストールをお願いします。

#### ■ Windows 10 の場合

1. 付属 CD をインストールする PC の CD-ROM ドライブにセットします。
2. CD 内の “Drivers” フォルダ内の setup.exe を実行します。
3. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックします。
4. 「LINEEYE ドライバパッケージインストーラー」ウィンドウが起動しますので、「OK」をクリックします。



5. インストールウィザードが起動しますので「次へ」をクリックします。
6. インストールが完了すると「デバイスドライバのインストールウィザードの完了」と表示されます。「完了」をクリックします。



### 2-3. 測定ソフト（LE-LINK91）のインストール

本機を PC と接続して測定を行うには測定ソフト「LE-LINK91」を使用します。測定データをグラフ表示しながらログファイルとして保存できます。測定に必要な本体設定も「LE-LINK91」を使用します。

#### ■インストール手順

インストーラはありませんので、次の手順で付属 CD からコピーして使用してください。

1. 付属 CD をインストールする PC の CD-ROM ドライブにセットします。
2. CD 内の “LE-LINK91” フォルダごと PC にコピーします。
3. コピーした “LE-LINK91” フォルダ内の LE-LINK91.exe を実行すると起動します。  
※アンインストールするにはコピーしたフォルダごと削除してください。

### 2-4. 無線 LAN（Wi-Fi）の設定

計測器の無線 LAN(Wi-Fi) 機能を利用する場合、「LE 無線 LAN 設定」ソフトにて無線 LAN 設定ファイル (WLANCFG.WL) を作成する必要があります。設定ファイルが書き込まれた SD カードを本体に挿入することで Wi-Fi の設定を行います。

#### 注意

IP アドレスの設定はご利用になるネットワークの管理者にご確認の上、設定してください。

#### ■無線 LAN 設定ファイルの作成

1. 「LE 無線 LAN 設定」ソフトを起動します。  
※ PC にコピーした測定ソフト（LE-LINK91）のフォルダ内にある lewlancfg.exe を実行すると起動します。
2. 「ステーション」または「アクセスポイント」を選択し、必要な項目を設定します。  
（無線 LAN(Wi-Fi) 機能を無効にする場合は「オフ」を選択します）

#### <ステーション>

外部 Wi-Fi(無線 LAN) アクセスポイントを経由して接続します。

無線LAN設定ファイル

無線LANモード(W) バージョン: 1.00

オフ  ステーション  アクセスポイント

SSID(S):

パスワード(P):

IPアドレス(I):

サブネットマスク(M):

ゲートウェイ(G):

ポート番号(P):

開く(O)... 保存(A)... 終了(X)

SSID	接続するアクセスポイントの SSID を設定します。
パスワード	アクセスポイントのパスワードを設定します。
IP アドレス	計測器の IP アドレスを設定します。
サブネットマスク	計測器のサブネットマスクを設定します。
ゲートウェイ	ゲートウェイを利用する場合には、ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
ポート番号	計測器のデータポートを設定します。

### <アクセスポイント>

計測器が Wi-Fi(無線 LAN) アクセスポイントとなって接続します。

無線LAN設定ファイル

無線LANモード(W) バージョン: 1.00

オフ  ステーション  アクセスポイント

SSID(S):

パスワード(P):

チャンネル(C):

IPアドレス:

ポート番号(P):

閉(C)... 保(A)... 終(X)

SSID	計測器の SSID を設定します。
パスワード	計測器のパスワードを設定します。
チャンネル	Wi-Fi 接続で使用するチャンネルを設定します。
IP アドレス	計測器の IP アドレスで 192.168.4.1 に固定されています。
ポート番号	計測器のデータポートを設定します。

※ アクセスポイントモードでは、計測器の DHCP サーバー機能が有効になっています。  
PC のネットワーク設定にて、「IP アドレスを自動的に取得する」をご利用いただけます。

#### 3. 「保存」を押します。

保存した無線 LAN 設定ファイル (WLANCFG.WL) は SD カードの“LE-9XX”フォルダ直下に配置してください。“LE-9XX”フォルダが存在しない場合、計測器に SD カードを挿入して電源を入れると作成されます。

#### 4. 計測器に無線 LAN 設定ファイル (WLANCFG.WL) の保存された SD カードをセットします。

#### 5. 計測器の電源を投入します。

自動的に無線 LAN(Wi-Fi) 機能が動作し、ステーションモードではアクセスポイントに接続します。設定情報は本体に記録されるので、次回の電源投入時にも同じ設定で接続を行います。

- ※ SD カードに書き込まれた無線 LAN 設定ファイルは本体が読み込んだ後は「WLANCFG.WL」からアンダーバーを加えた「\_WLANCFG.WL」にリネームされ、2 回目以降は読み込まないようになります。
- ※ Wi-Fi LED が赤で点灯しているとき、無線 LAN (Wi-Fi) が使用可能な状態です。ステーションモードでは点滅したあと、アクセスポイントに接続完了すると点灯します。
- ※ 本体に電源が入っている状態でも無線 LAN 設定ファイルが書き込まれた SD カードを挿入すれば本体の無線 LAN 設定が変更されます。ただし、無線 LAN (Wi-Fi) を使用して測定中は変更されず変更前の無線 LAN 接続を維持し、変更設定は本体に保存され次回の電源投入時に変更が実施されます。

### ■無線 LAN 設定の消去

本体に記録されている無線 LAN 設定は次の方法で消去することができます。

#### <方法 1 >

無線 LAN モードが OFF に設定された無線 LAN 設定ファイルを本体に読み込ませてください。

#### <方法 2 >

本体の電源を入れて RUN/STOP スイッチを 10 秒間押ししてください。Wi-Fi LED が早い赤点滅をしたあとスイッチを離すと無線 LAN 設定情報が消去されます。

### 3-1. 測定の準備

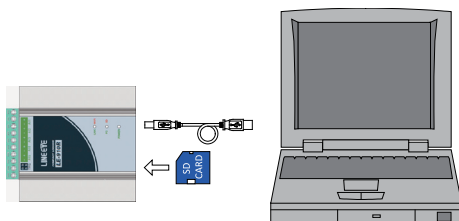
測定を開始する前に計測器の準備が必要です。測定方法に合わせて準備してください。

#### ■ 測定ソフト（LE-LINK91）で測定する場合

LE-LINK91 がインストールされた PC に USB または無線 LAN で接続します。本体に SD カードが挿入されている場合は測定ソフトで記録しながら本体の SD カードへ記録することもできます。

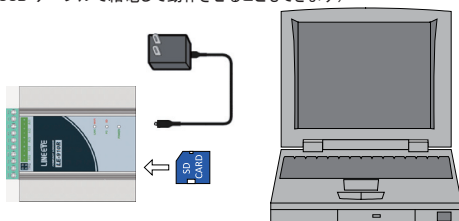
##### < USB 接続 >

付属のミニ USB ケーブルで PC と接続します。バスパワーで動作するので DC ジャックに AC アダプタを接続する必要はありません。



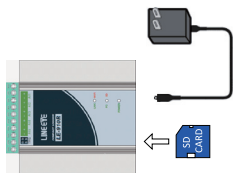
##### < 無線 LAN (Wi-Fi) 接続 >

予め本体に無線 LAN 設定をする必要があります。→「2-4. 無線 LAN (Wi-Fi) の設定」  
DC ジャックに AC アダプタを接続します。  
(ミニ USB ケーブルで給電して動作させることもできます)



#### ■ 本体のみで測定する場合

測定に必要な設定を LE-LINK91 で予め設定しておく必要があります。→「3-2. 測定の設定」  
本体に SD カード挿入し、DC ジャックに AC アダプタを接続します。  
(ミニ USB ケーブルで給電して動作させることもできます)



## ■ 測定対象との配線

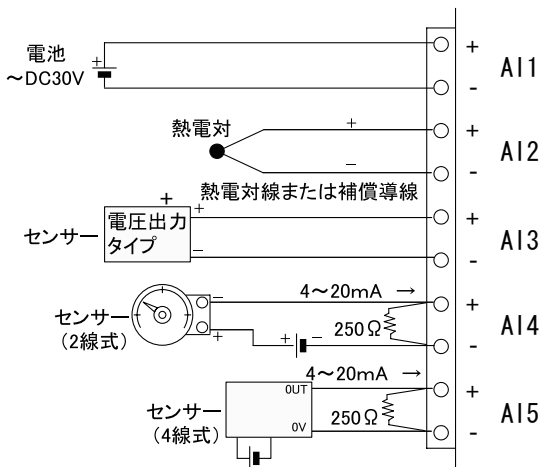
測定対象を端子台に配線してください。

配線および端子台の着脱は、必ず電源を OFF にしてから行ってください。

端子台の信号配列と入力部の回路構成は下表のようになっています。

端子台の信号配列			入力部の回路構成
端子	記号	入力構成	<p>※ チャンネル毎にあるフォト MOS FET リレーは、同時にオンしないように自動制御されています。</p>
1	AI1 +	アナログ入力 1	
2	AI1 -	アナログ入力 1 グランド	
3	AI2 +	アナログ入力 2	
4	AI2 -	アナログ入力 2 グランド	
5	AI3 +	アナログ入力 3	
6	AI3 -	アナログ入力 3 グランド	
7	AI4 +	アナログ入力 4	
8	AI4 -	アナログ入力 4 グランド	
9	AI5 +	アナログ入力 5	
10	AI5 -	アナログ入力 5 グランド	

以下の接続例を参考にして、配線を端子台に接続してください。端子台に配線するときは、端子台のネジを規定トルク 0.5 ~ 0.6 Nm で確実に締めてください。端子には極性がありますので注意して接続してください。



## 3-2. 測定の設定

測定を開始する前に計測器の測定設定を測定対象に合わせる必要があります。測定に必要な設定は「LE-LINK91」から行うので、USB または無線 LAN (Wi-Fi) で接続できるように予め準備してください。→「3-1. 測定の準備」

### ■ LE-LINK91 との接続手順

1. LE-LINK91 を起動します。
2. メイン画面の「接続設定」をクリックすると、接続設定ダイアログが表示されます。設定項目の詳細は「4-1. 各部の説明 の 接続設定」を参照してください。接続方法を選択し、必要な設定をしたら「OK」をクリックします。

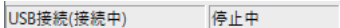
#### < USB 接続 >

接続方法に「USB」を選択します。  
シリアルポートの一覧から LE-910R が接続されている COM ポートを選択します。  
(COM ポート番号はデバイスマネージャなどで確認してください)

#### < 無線 LAN (Wi-Fi) 接続 >

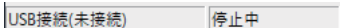
接続方法に「Wi-Fi」を選択します。  
IP アドレスとポート番号は LE-910R に設定したものと同一ものを入力します。  
※ LE-LINK91 をご利用になる PC が無線 LAN ネットワークに接続されている必要があります。

3. メイン画面の「接続」をクリックします。  
接続できるとステータスバーに「接続中」と表示されます。  
接続に失敗する場合は接続設定を見直してください。



### ■ LE-LINK91 との切断手順

メイン画面の「切断」をクリックすると切断され、ステータスバーに「未接続」と表示されます。



測定の終了や、測定設定の変更後に LE-LINK91 を終了するときは必ず切断してください。

### ■ 測定設定の手順

1. メイン画面の「測定設定」をクリックすると、測定設定ダイアログが表示されます。設定項目の詳細は「4-1. 各部の説明 の 測定設定」を参照してください。  
※「測定設定」は計測器と接続中のみクリックできます。
2. ツリーメニューから「測定設定」を選択し、測定間隔など必要な設定をします。
3. ツリーメニューから「チャンネル設定」(AI1 ~ 5) を選択し、測定対象の出力に合わせて各チャンネルのレンジなどを設定します。
4. 設定が完了したら「適用」をクリックすることで、本体に設定内容が反映されます。「キャンセル」をクリックすると変更した設定が破棄されます。  
※ 設定は本体に保存されるので電源をオフにしても次の電源オン時も同じ設定で動作します。

### ■ 内蔵時計について

計測器本体には測定時刻を記録するための時計を内蔵しており、時計機能を維持するためのリチウム 2 次電池が内蔵されています。この電池は本機への給電時に充電され、3 時間の充電で電源が切れても約 1 ヶ月間本機の時計を動かすことができます。

本体をはじめて使うときや、しばらく電源が接続されいかなかったときは内蔵時計が初期化されていることがあります。その場合は本体の時計を設定しなおしてください。

設定方法の詳細は「4-1. 各部の説明 の 測定設定」を参照してください。



### 3-3. 測定の方法

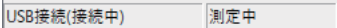
測定の設定ができれば測定を開始します。

#### ■ 測定ソフト（LE-LINK91）で測定する場合

##### ・ 測定の開始方法

LE-LINK91 または本体を操作することで測定が開始し、ステータスバーに「測定中」と表示されます。本体の PC/SD LED は緑または橙で点灯します。

測定中は経過時間とともにグラフが更新され、測定値をログファイルに記録します。



##### < LE-LINK91 を操作する場合 >

メイン画面の「測定開始」をクリックすると測定が開始します。本体に SD カードが挿入されている場合は SD カードの記録を同時に開始します。

※「測定開始」は計測器と接続中のみクリックできます。

※ 本体 SD カードの記録も同時に開始するには設定が有効になっている必要があります。

設定方法は「4-1. 各部の説明 の ログ設定」を参照してください。

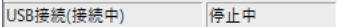
##### < 本体を操作する場合 >

本体の RUN/STOP スイッチを押すと測定を開始します。本体に SD カードが挿入されている場合は SD カードの記録を同時に開始します。

※ 本体で操作した場合は SD カードの記録も必ず開始します。

##### ・ 測定の停止方法

LE-LINK91 または本体を操作することで測定が停止します。グラフの更新を停止し、ステータスバーに「停止中」と表示されます。本体の PC/SD LED は消灯するか、本体 SD カードの記録が継続しているときは赤で点灯します。



##### < LE-LINK91 を操作する場合 >

メイン画面の「測定停止」をクリックすると測定が停止します。本体 SD カードに記録している場合には SD カードへの記録停止の確認メッセージが表示されます。停止を選択した場合は SD カードの記録を同時に停止します。

※「測定停止」は測定中のみクリックできます。

##### < 本体を操作する場合 >

本体の RUN/STOP スイッチを押すと測定が停止します。本体 SD カードへ記録している場合には SD カードの記録を同時に停止します。

※ 本体で操作した場合は確認なく SD カードの記録を必ず停止します。

#### ■ 本体のみで測定する場合

##### ・ 測定の開始方法

本体の RUN/STOP スイッチを押すと本体の SD カードへの記録を開始し、PC/SD LED が赤で点灯します。本体に SD カードが挿入されていないときは開始しません。

##### ・ 測定の停止方法

本体の RUN/STOP スイッチを押すと本体の SD カードへの記録を停止し、PC/SD LED が消灯します。

#### 注意

SD カードを本機から取り出す時は、必ず PC/SD LED が消灯または緑点灯している時に行ってください。アクセス中に SD カードを取り出すと、カードの管理エリアが壊れ、ログファイルだけでなくカードそのものが使えなく可能性があります。

### 3-4. ログファイル

測定したデータはログファイルとして CSV 形式で保存されます。

ログファイルの先頭には測定設定などが出力されます。

A11 ~ 5 の測定データはシーケンス番号、タイムスタンプと一緒に出力され、タイムスタンプの時間は 1/100 秒単位まで出力されます。

測定データは有効数字 6 桁で出力され、熱電対のみ 0.1°C 単位となります。また、断線検知を有効にしている場合、断線時は「BO」が出力されます。

No.	日時	時間	AI1	AI2	AI3	AI4	AI5	
11	1	2019/5/29	34.31.0	0.0014	0.724	0.00073	0.0023	0.0014
12	2	2019/5/29	34.31.5	0.0014	0.722	0.00073	0.0023	0.0014
13	3	2019/5/29	34.32.0	0.0014	0.729	0.00073	0.0023	0.0014
14	4	2019/5/29	34.32.5	0.0014	0.721	0.00073	0.0023	0.0014
15	5	2019/5/29	34.33.0	0.0014	0.719	0.00073	0.0023	0.0014

#### ■ 「LE-LINK91」で保存されるログファイル

「ログ設定」で設定した保存場所にログファイルが作成されます。

最初の測定データ時刻の“年月日\_時分秒”のファイル名で作成されます。

(例「190529\_113431.csv」2019年5月29日11時34分31秒)

#### ■ 本体のSDカードに保存されるログファイル

SDカードに保存されるログファイルは「LE-9XX」フォルダ内に測定を開始した時点の日付名フォルダに“測定開始時間+連番”ファイル名で作成されます。

ログファイル1つあたりのサイズ上限は200Mbyteで、上限を超えた場合は新しいログファイルを作成して測定を継続します。継続ログファイル数の上限は100個までで超えた場合は測定を停止します。

例)

SDカードルート

└ LE-9XX

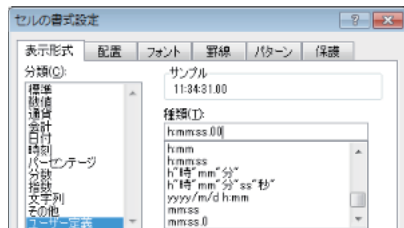
```

├── 20190529 ..... 2019年5月29日
│   ├── 11343100.CSV ..... 11時34分31秒に測定を開始
│   └── 11343101.CSV ..... ファイルサイズ上限に到達し、新しいファイルを作成
├── 20190607 ..... 2019年6月7日
│   └── 06550100.CSV ..... 6時55分01秒に測定を開始

```

#### ■ 参考

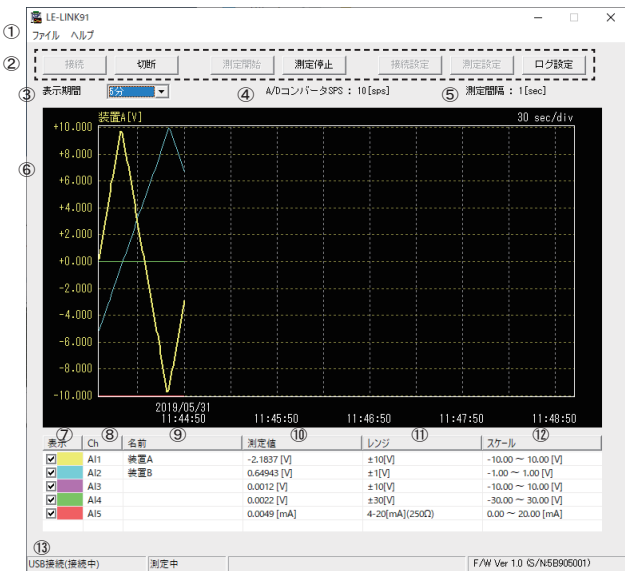
ログファイルをエクセルなどで開く場合、「時間」に秒未満の数値(1/100秒単位)が含まれているため値が全て表示されない場合があります。セルの書式設定のユーザー定義にて“h:mm:ss.00”を指定して表示してください。



4-1. 各部の説明

■ メイン画面

LE-LINK91 を起動するとメイン画面が表示されます。



①	ファイル	ログ設定	ログファイルの保存先や SD カードの記録設定をします。
	ヘルプ	バージョン情報	LE-LINK91 のバージョンを表示します。
②	操作ボタン	接続	計測器と接続を確立します。
		切断	計測器と切断します。
		測定開始	測定を開始します。
		測定停止	測定を停止します。
		接続設定	計測器との接続方法を設定します。
		測定設定	計測器の測定条件などを設定します。
		ログ設定	ログファイルの保存先や SD カードの記録設定をします。
③	グラフ横軸の表示期間を変更する事ができます。		
④	設定されている A/D コンバータのサンプリングレートを表示します。		
⑤	設定されている測定間隔を表示します。		
⑥	測定データをリアルタイムでグラフ表示します。 選択されたチャンネルのスケール (縦軸) と名前を表示します。		
⑦	各チャンネルのグラフの表示 / 非表示を切り替えます。		
⑧	チャンネル番号を表示します。		
⑨	設定した名前を表示します。		
⑩	最新の測定データを表示します。		
⑪	設定したレンジを表示します。		
⑫	設定したスケールを表示します。		
⑬	計測器との接続状態、測定状態、ファームウェアバージョンとシリアル番号を表示します。		

## ■ 接続設定

計測器との接続方法を選択します。

「接続設定」ボタンをクリックすると表示され、設定後に「OK」ボタンを押してください。

### <接続方法に USB を選択>

計測器と PC を USB ケーブルで接続する場合に選択してください。



接続設定

接続方法: USB

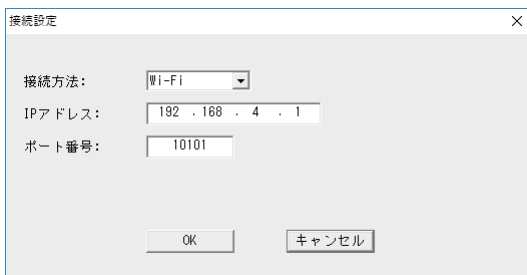
シリアルポート: COM10

OK キャンセル

シリアルポート: 計測器が接続されている COM 番号を選択します。

### <接続方法に Wi-Fi を選択>

計測器と PC を無線 LAN (Wi-Fi) で接続する場合に選択してください。



接続設定

接続方法: Wi-Fi

IPアドレス: 192.168.4.1

ポート番号: 10101

OK キャンセル

IP アドレス : 計測器に設定されている IP アドレスを入力します。

ポート番号 : 計測器に設定されているポート番号を入力します。

※予め本体に無線 LAN 設定を行ってください。→「2-4. 無線 LAN (Wi-Fi) の設定」

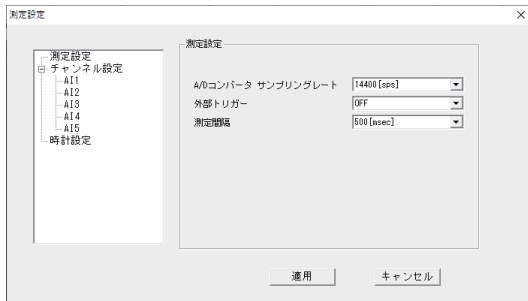
## ■ 測定設定

計測器の測定設定を行います。

「測定設定」をクリックすると表示され、計測器と接続中のみ設定できます。

左側のツリーメニューから設定項目を選択すると、右側に各設定が表示されます。設定後に「適用」ボタンを押すと本体に保存されます。「キャンセル」ボタンを押すと本体に保存されません。

<測定設定>



A/Dコンバータ サンプリングレート :

内蔵 AD コンバータの 1 秒間当たりの AD 変換回数 ( 単位 sps ) を選択します。

本機は入力チャンネルを順番に切り替えて、1 つの AD コンバータで AD 変換するため、各アナログ入力チャンネルの更新に以下の時間がかかります。

( AD 変換時間 + チャンネル切り替え時間 5m 秒 ) × 測定チャンネル数  
アナログ入力は 5 チャンネルなので 10[sps] で測定する場合は、  
( 100.5m 秒 + 5m 秒 ) × 5 = 527.5m 秒毎に各チャンネルのアナログ測定値が更新されます。  
これより早い測定間隔でアナログ測定値を転送しても、前回と同じ値が読み出されます。

A/D コンバータ サンプリングレート	AD 変換時間	アナログ測定値の更新周期
10[sps]	100.5[m 秒]	527.5[m 秒 / チャンネル]
16.6[sps]	60.6[m 秒]	328[m 秒 / チャンネル]
50[sps]	20.6[m 秒]	128[m 秒 / チャンネル]
60[sps]	17.2[m 秒]	111[m 秒 / チャンネル]
400[sps]	3.05[m 秒]	40.25[m 秒 / チャンネル]
1200[sps]	1.35[m 秒]	31.75[m 秒 / チャンネル]
3600[sps]	0.76[m 秒]	28.8[m 秒 / チャンネル]
14400[sps]	0.54[m 秒]	27.7[m 秒 / チャンネル]

※ 熱電対測定中には、上記に加えて最大 1m 秒 / チャンネル 更新周期が遅くなります。

電源周波数が 50Hz/60Hz の使用環境では、初期値の 10[sps] が最も電源ノイズに影響されない測定設定です。1 秒より早い測定間隔でアナログ測定値を取得する場合のみ設定を変更してください。その際、電源周波数 50Hz の使用環境では 50[sps] が、電源周波数 60Hz の使用環境では 60[sps] が電源ノイズに影響されにくいことを考慮して変更してください。

外部トリガー :

有効にすると外部信号を使用した測定ができます。

外部トリガー機能の詳細は「5-1. 外部信号をトリガーに使用した測定」を参照してください。

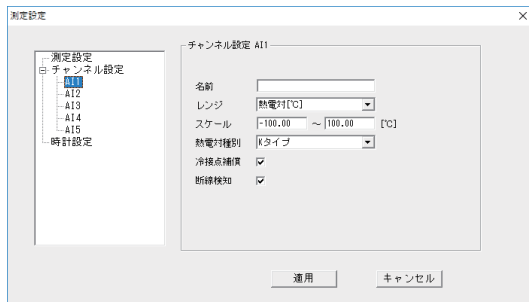
トリガー設定	内容
OFF	測定間隔で設定した周期で測定します。
外部信号 (立ち下がり)	外部信号の立ち下がり時に測定します。
外部信号 (立ち上がり)	外部信号の立ち上がり時に測定します。

測定間隔 :

アナログ測定の周期 ( 最小 500m 秒 ~ 最大 60 分 ) を選択します。測定値を測定ソフトへ転送、本体 SD カードへ記録する周期となります。「外部トリガー」に OFF 以外が設定されている場合はこの設定は使用されません。

## <チャンネル設定>

チャンネル毎に設定します。ツリーメニューから AI1 ~ 5 を選択すると設定が表示されます。熱電対に関する設定はレンジに熱電対を選択した場合に表示されます。



### 名前：

名前を付けるとグラフおよびチャンネル一覧に表示されます。

### レンジ：

アナログ入力レンジを設定します。測定対象に合わせて適切なレンジを選択してください。

レンジ	内容
± 100 [mV]	± 100 [mV] レンジで電圧を測定する時に使用します。
± 1 [V]	± 1 [V] レンジで電圧を測定する時に使用します。
± 10 [V]	± 10 [V] レンジで電圧を測定する時に使用します。
± 30 [V]	± 30 [V] レンジで電圧を測定する時に使用します。
0-20 [mA] (外付け 250 Ω)	入力端子台に 250 Ω の抵抗を外付けしてセンサー等からアナログ電流信号を測定する時に使用します。
0-20 [mA] (外付け 50 Ω)	入力端子台に 50 Ω の抵抗を外付けしてセンサー等からアナログ電流信号を測定する時に使用します。
熱電対 [°C]	入力端子台に熱電対を接続して温度を測定する時に使用します。

### スケール：

グラフの縦軸スケール表示の最大と最小を設定します。(小数点 2 桁まで)  
この設定はレンジ毎に保存されるので、レンジを変更すると連動してスケール設定が切り替わります。測定値がスケールの範囲を超える場合、グラフ上では最大または最小側に張り付いて表示されます。

### 熱電対種別：

熱電対のタイプを指定します。使用する熱電対のタイプを選択してください。

### 冷接点補償：

冷接点補償機能の有効 / 無効を設定します。(チェックありの場合に有効)

通常は有効に設定してお使いください。

氷浴等の外部補償装置を用いた高精度測定を行いたい場合、無効にすることができます。

無効に設定の場合、冷接点温度を 0°C と仮定した測定温度を出力します。

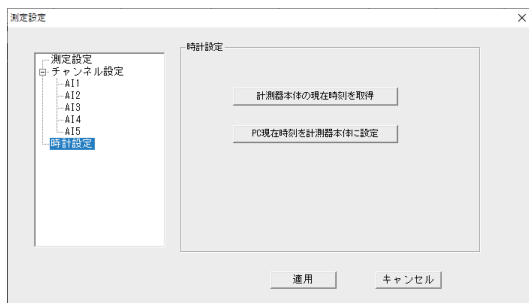
### 断線検知：

熱電対の断線検知機能の有効 / 無効を設定します。(チェックありの場合に有効)

通常は、有効に設定してお使いください。補償導線の線長が非常に長く、断線検知用の微弱電流による測定精度悪化が気になる場合には無効にすることができますが、断線状態の検知はできなくなります。(断線検知用印加電流は 約 180 nA です)

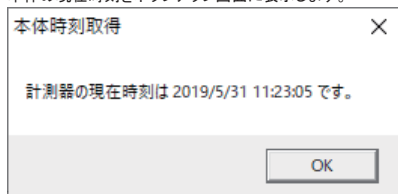
## <時計設定>

本体内蔵時計の確認と設定をします。



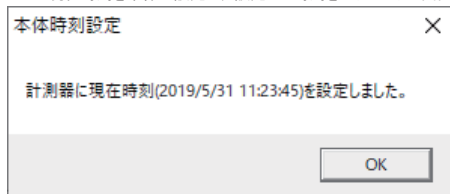
計測器本体の現在時刻を取得：

本体の現在時刻をポップアップ画面に表示します。



PC 現在時刻を計測器本体に設定：

PC の現在時刻を本体に設定し、設定した時刻をポップアップ画面に表示します。



## ■ ログ設定

ログに関する設定を行います。

「ログ設定」ボタンかファイルメニューの「ログ設定」を押すと表示され、設定後に「OK」ボタンを押してください。



ログファイルの保存先：

測定データを保存する場所を指定します。未設定の場合は「LE-LINK91」の実行ファイルと同じ場所となります。「変更」ボタンで保存先を変更できます。「開く」ボタンで保存先のフォルダを開きます。

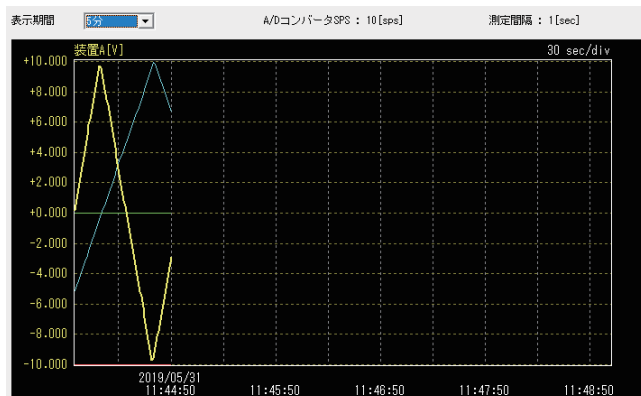
測定開始時に本体 SD カードへ記録を開始する：

チェックすると、本体に SD カードが挿入されている場合、SD カードへの記録も開始されます。（SD カードが挿入されていない場合は記録されません）

## 4-2. グラフの見方

### ■ グラフエリア

A11 ~ 5 の測定値をグラフで表示します。約 1 秒周期で更新されます。測定開始直後はグラフは左からプロットされ、右端に到達するとグラフを左側にシフトしながら表示します。



<横軸（時刻）>

測定時刻を表し、最も右に表示されている測定値が最新となります。

「表示期間」で選択した期間だけ表示されます。表示期間に対して測定データ数が多い場合、測定データから代表値を選択してグラフ表示するため、急激な測定値の変化が描画されない可能性があります。詳細な測定値を確認する場合はログファイルで確認してください。



### <縦軸（測定値）>

測定したアナログ値を設定されているスケールの範囲で表示します。測定値が範囲外の場合は最小・最大側に張り付いて表示されます。軸に表示される数値ラベルは選択されているチャンネルの設定が表示されます。

### ■ チャンネル一覧

AI1 ～ 5 のチャンネル設定が表示されます。クリックした場所のチャンネルが選択状態になります。

表示	Ch	名前	測定値	レンジ	スケール
<input checked="" type="checkbox"/>	AI1	装置A	-2.1837 [V]	±10[V]	-10.00 ～ 10.00 [V]
<input checked="" type="checkbox"/>	AI2	装置B	0.64943 [V]	±1[V]	-1.00 ～ 1.00 [V]
<input checked="" type="checkbox"/>	AI3		0.0012 [V]	±10[V]	-10.00 ～ 10.00 [V]
<input checked="" type="checkbox"/>	AI4		0.0022 [V]	±30[V]	-30.00 ～ 30.00 [V]
<input checked="" type="checkbox"/>	AI5		0.0049 [mA]	4-20[mA](250Ω)	0.00 ～ 20.00 [mA]

### <チャンネルの選択>

選択されたチャンネルのグラフが最前面に表示されます。グラフエリア左上に表示される名前も選択中のチャンネルの名前になります。

### <グラフの表示 / 非表示>

表示が有効なチャンネルのグラフのみ表示されます。表示 / 非表示の切り替えはチャンネル一覧の表示チェックボックスで操作します。

### <表示>

AI1 ～ 5 のグラフ表示 / 非表示状態と、対応するグラフ色が表示されます。チェックボックスをクリックすることでグラフの表示状態を切り替えることが出来ます。

測定に使用していないチャンネルを非表示することでグラフが見やすくなります。

### <名前>

チャンネルの名前が表示されます。測定設定から変更できます。

→「4-1. 各部の説明 の 測定設定」

### <測定値>

最新の測定値が表示されます。（有効数字 6 桁）

例えば、レンジが ± 10[V] なら -10.0000[V] ～ 10.0000[V]

レンジが ± 100[mV] なら -100.000[mV] ～ 100.000[mV]

レンジが電流（250 Ω 外付け）なら、0.0000[mA] ～ 20.0000[mA]

熱電対レンジの場合は 0.1[°C] 単位で表示されます。断線検知を有効にしている場合は、断線時に測定値の代わりに「BO」が表示されます。

### <レンジ>

測定レンジが表示されます。測定設定から変更できます。→「4-1. 各部の説明 の 測定設定」

### <スケール>

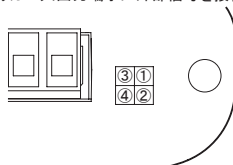
グラフエリアに表示する測定値の範囲設定が表示されます。グラフはこの範囲内の測定値を表示します。範囲外の測定は最小または最大値側に張り付いて表示されます。測定設定から変更できます。→「4-1. 各部の説明 の 測定設定」

5-1. 外部信号をトリガーに使用した測定

外部信号の立ち上がり、または立ち下がりで AI1 ~ 5 のアナログ値を測定する機能です。測定のタイミングを外部から制御したい場合に利用できます。  
測定間隔の最小は 0.5 秒です。これより短い間隔の外部信号を入力しても無視されます。

■ 接続方法

外部トリガー入出力端子に外部信号を接続します。



ピン	信号名	機能
①, ③	S	外部信号入力 TTL レベル入力 入力範囲: -0.5V ~ 6.0V, 10kΩ プルアップ
②, ④	G	信号グランド

※ ①と③、②と④は計測器内部で接続されています。  
※ 接続にはピッチ: 2.54mm の QI (2550) ソケットが使用できます。

■ 設定方法

「測定設定」の「外部トリガー」から「外部信号 (立ち上がり)」または「外部信号 (立ち下がり)」を選択してください。→「4-1. 各部の説明の 測定設定」  
測定の開始と停止は通常と同じ方法です。測定開始後は外部信号入力の変化で測定します。

5-2. 同期測定モード

測定ソフト「LE-LINK91」のバージョンアップで対応予定です。Ver 1.0 時点では未対応です。

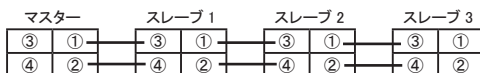
複数台の LE-910R で同期を取りながら測定する機能です。5 チャンネルを超える測定をする場合に利用できます。1 台をマスター、3 台をスレーブとすることで最大 20 チャンネルの測定ができます。

■ 動作

- ・ 測定の開始と停止はマスターとなる測定器を操作します。スレーブとなる計測器では測定開始・停止の操作はできません。スレーブはマスターに合わせて自動的に開始・停止します。
- ・ 測定はマスターの測定間隔で行い、スレーブはマスターと同じ測定タイミングになるよう同期して測定を行います。
- ・ マスターとなる計測器の POWER LED が赤で点灯し、スレーブは POWER LED が橙で点灯します。

■ 接続方法

同期測定モードを利用する場合は LE-910R 間を外部トリガー入出力端子で接続します。  
マスターとスレーブ、スレーブとスレーブの同期信号と信号グランドを下図のように接続してください。



ピン	信号名	機能
①, ③	S	同期信号入出力
②, ④	G	信号グランド

※ 接続にはピッチ: 2.54mm の QI (2550) ソケットが使用できます。

## ■ 設定方法

測定ソフトから設定します。(Ver 1.0 時点では未対応)

## ■ 測定データについて

<「LE-LINK91」で測定するとき>

測定データのタイムスタンプはマスターの時計時刻となるので、マスターは測定ソフトに接続されている必要があります。測定ソフトに接続されている台数分の測定データを一括してグラフに表示し、一つのログファイルに全てのチャンネルの測定データを記録します。

<本体の SD カードに記録するとき>

通常の測定と同様に本体の SD カードにログファイルが作成されます。同じシーケンス番号の測定データが同じタイミングで測定したデータを表します。

タイムスタンプはそれぞれの本体の時計を使用するので、同時刻に測定を開始した場合でもログファイル名や測定データのタイムスタンプは一致しない場合があります。

## 第 6 章 資料

### 6-1. 制御コマンド

LE-910R はコマンドを利用して制御することができます。コマンドを利用することで独自のアナログ信号測定アプリケーションが作成できます。

コマンドの詳細は付属 CD にある「LE-910R\_制御コマンド仕様説明書 .pdf」を参照してください。

### 6-2. オプション

下記のオプションが用意されています。

名称	型番	説明
32 ギガバイト SDHC カード	SD-32GX	32G バイト Class10
LE-910/930 用 DIN 取付プレート	LE-DIN13S	35mmDIN レールへの取り付け用
ワイド入力 AC アダプタ	6A-181WP09	定格入力 : AC100V ~ 240V、50/60Hz 定格出力 : DC9V、2A プラグ : センタープラス 外径 5.5mm、内径 2.1mm 適合規格 : PSE/UL/CUL/GS/CCC/CE 動作温度 : 0-40°C
ミニ USB ケーブル	SI-US218	A-mini B タイプの USB ケーブル (1.8m)
5.08mm ピッチ端子台 10 極	LA-10ETB41	着脱式端子台コネクタ 予備または交換用
電流測定用抵抗 250 Ω	LA-SM10250RB	電流を測定する時に利用します。 抵抗値 : 250 Ω、許容誤差 : ± 0.1%、電力 : 0.3W

価格、入手方法などは販売店または当社営業部までお問い合わせください。

## 7-1. 故障かなと思ったら

## ■ 「POWER」LED が点灯しない

＜ USB ケーブル使用時＞ USB ポートの供給電力が不足していませんか？	お使いの PC によっては供給電力が不足する場合があります。パスパワーで動作している他の機器を取り外すなどしてください。または AC アダプタを使用してください。
＜ AC アダプタ使用時＞ AC アダプタの接続不良はないですか？	AC アダプタジャックの接続、コンセントへの差込状態などを確認してください。

## ■ 本体 SD カードに記録できない

SD カードが正しく挿入されていますか？	SD カードを「カチッ」と音がするまで奥まで差し込んでください。
ライトプロテクトスイッチが ON になっていませんか？	SD カードの側面にあるライトプロテクトスイッチを OFF にしてください。
SD カードの空き容量が不足していませんか？	SD カードの空き容量を確保してください。
FAT/FAT32 でフォーマットされていますか？	FAT/FAT32 でフォーマットしてください。

## ■ 計測器に接続ができない

＜ USB 接続時＞ USB ドライバーがインストールされていますか？	付属 CD にある USB ドライバーをインストールしてください。
＜ Wi-Fi 接続時＞ Wi-Fi 設定は正しいですか？	Wi-Fi の接続設定や IP アドレスなどを再確認してください。計測器と測定ソフトの設定を確認して同じポート番号に合わせてください。
セキュリティソフトを利用していますか？	ファイアウォール機能を一時的に無効にして試してください。接続できた時は、本機の通信を遮断しないようにセキュリティソフトの設定を見直してください。
PC は本機と同じネットワークに接続されていますか？	PC の IP アドレスが本機と同じネットワークグループになっているか確認してください。外部ネットワークからの接続している時はルータ等が正しく設定されているかをネットワーク管理者に確認してください。

## ■ Wi-Fi 接続が切れる

周辺に多くの無線アクセスポイント (AP) が設置された場所で利用していませんか？	電波強度の強い他の AP が近くにあると電波干渉により送受信の遅延が大きくなり、タイムアウトにより接続が切れることがあります。AP の位置を変えるか、AP の無線チャンネルを変更してみてください。
輻射ノイズの発生源はありませんか？	大型モーターや基板が露出した試作器などが近くにある時は一度それらの機器から離れてみてください。
AP までの距離は適切ですか？	周囲の電波環境により接続可能距離が非常に短くなる場合があります。接続テストを行い、AP との距離は可能なかぎり近づけてください。

## ■ アナログ測定の値が正しくない

端子台が正しく接続されていますか？	端子台と測定対象は適合する電線で接続し、着脱式端子台は奥までしっかり差し込んでください。
測定設定が正しいですか？	測定対象にあわせて適切な測定レンジを設定してください。熱電対を使用する場合は熱電対の設定もしてください。
電流測定用の外付け抵抗が接続されていますか？	電流の測定時は外付け抵抗を接続してください。

## 7-2. 保証とアフターサービス

---

- ◆ この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
  - ◆ 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
  - ◆ 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
  - ◆ 保証期間中の修理は、保証書の記載内容にもとづいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
  - ◆ 保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合、ご要望により、有償修理させていただきます。
- 修理についてご相談になるときは、型名、製造番号、故障の状態（できるだけ詳しく）、購入年月日をお知らせください。

### ==== ユーザー登録のお願い =====

バージョンアップ案内やお問合せサポートの円滑化のため、  
ホームページのユーザー登録ページまたは製品同梱のハガキで  
ユーザー登録をお願いします。



# 株式会社 ラインアイ

- 本社 : 〒601-8468 京都府京都市南区唐橋西平垣町39-1 丸福ビル4F  
tel:075(693)0161 fax:075(693)0163
- 技術センター : 〒526-0065 滋賀県長浜市公園町8-49  
tel:0749(63)7762 fax:0749(63)4489

URL <https://www.lineeye.co.jp> Email :[info@lineeye.co.jp](mailto:info@lineeye.co.jp)